

本講習会に集った同志と、属人化や業務のばらつきについて問題を共有できたことは大変有意義でした。西澤延宏先生に講義いただいた病院全体で取り組む「業務標準化」についての示唆は、この課題解決の道筋になると確信します。しかし、この実現には医師の協力を得るほかありません。そのために、私たち自身が本講習会のような学習の場に身を置き、診療録・医療文書や臨床用語の正しい理解はもちろん、医療や診療報酬のトレンドについても学び、医師業務負担軽減だけではなく、病院の経営面からも有意義な存在だと信頼を得ていく必要があるのです。

とはいえ、医療職の方々が何年がかりで学ぶものを一朝一夕というわけにはいきません。たゆまぬ学習とその学びを現場で生かすことが肝要だと実感しています。

また、本講習会でAIは業務を奪い合う競争相手ではなく、協働すべきいわばバディだと示されたことは大きな収穫です。この文章を読んでいただく頃には当院にもAIが導入され、きっと戸惑いながら試行錯誤を重ねていることと思います。しかしその混乱もまた、次の医師事務作業補助者の進化の過程と信じています。

支部学術集会開催報告

第13回福島県支部学術集会

学術集会会長：一般財団法人竹田健康財団
竹田総合病院副院長 小藺江 浩一

2025年9月27日(土)、福島県会津若松市のアピオスペースにおいて、第13回福島県支部学術集会を開催しました。今回のテーマは「働き方改革と医療DX」とし、特別講演と一般演題発表を行いました。

特別講演は講師として兵藤敏美先生(合同会社メディカルソリューションパートナー代表)をお招きし、「医療現場の働きやすい環境改善にDXを役立てるーDXというコトバに惑わされずに活用するポイントはなにかー」と題して医療現場におけるDX推進の考え方や事例を現場目線の実践的な内容でご講演いただきました。

また、一般演題では、DX推進、働き方改革、医療の質向上、退院支援、医療安全、病床管理、医療連携、業務改善などについて多職種の演者より18題が発表され、活発な意見交換が行われました。

当日は108名のご参加をいただき盛会のうちに開催することができました。本学術集会の開催にあたりご支援とご協力を賜りました関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

第30回岡山県支部学術集会

学術集会会長：国立病院機構岡山医療センター院長 柴山卓夫
2025年9月27日(土)に国立病院機構岡山医療センターにて日本医療マネジメント学会第30回岡山県支部学術集

会を開催いたしました。

本学術集会では、「少子高齢化社会を目前に、今私たちに求められること ～This is our mission～」をテーマとし、特別講演では人口減少対策総合研究所理事長河合雅司先生に「未来の年表 ～人口減少日本で起きること～」と題してご講演いただきました。シンポジウム「少子高齢化社会の中での持続可能な医療を考える」では、シンポジストによる様々な立場からのご発表とその後の総合討論で参加者の皆様と共に岡山県の医療の未来について深く議論を重ねることができました。

また、一般演題では、32題の多彩な発表と共に活発な質疑応答等が行われ、260名以上のご参加をいただき、盛会のうちに終わることができました。

本学術集会の開催にあたり多大なご支援とご協力を賜りました関係者の皆様へ、厚く御礼申し上げます。

第24回北海道支部学術集会

学術集会会長：北見赤十字病院病院長 荒川穰二

2025年10月11日(土)に北見赤十字病院多目的ホールにて、学術集会テーマを「これからの地域医療を考える～地域連携と医療DX～」として開催しました。特別講演では、福岡赤十字病院院長の中房祐司先生から「コロナ禍以降の地域医療構想を踏まえたこれからの地域医療」について講演をいただきました。



会場風景

事例発表では、各医療機関の医師事務作業補助者や事務部門におけるチーム医療・業務効率化の取り組み、画像診断や病理診断等におけるDXの取り組みについて発表がありました。

各地から多くの医療関係者が参加し、院内外合わせて109名の参加をいただき、盛会のうちに閉会することが出来ました。

参加者同士の意見交換や情報共有が深まり、今後の医療体制の強化に向けた有意義な学術交流の場となりました。

本学術集会の開催に際し、ご支援ご協力を賜りました関係者の皆様に心より感謝を申し上げ、開催の報告とさせていただきます。

本学術集会の開催に際し、ご支援ご協力を賜りました関係者の皆様に心より感謝を申し上げ、開催の報告とさせていただきます。

第18回三重県支部学術集会

学術集会会長：鈴鹿回生病院院長 荒木朋浩

2025年10月11日(土)に国立病院機構三重中央医療センター研修棟大会議室にて第18回三重県支部学術集会を